

君がこの上なく愛した研究は君が育てた若い人たちによって引き継がれ立派に生成発展してゆくことに疑いはない。天空の一角でそれを見守っていて下さい。哲さんのみ霊安かれと今は祈るだけです。 合 掌

## 中村哲郎先生を偲んで

中村哲郎先生の御逝去の知らせに接し愕然といたしました。一ヶ月ほど前に入院されたことで心配をいたしましたのですが、回復に向かっておられると伺い、日頃健康には細かに留意され、お酒もタバコも嗜まされず、ゴルフはシングルに近い腕前の先生のこと、何れはお元氣な姿で戻られることとと思っていた矢先のことであったからであります。

先生は東北大学を御卒業の後、日本電気(株)で日本の半導体デバイス開発草分けの仕事に従事され、半導体トランジスタの我国初の量産化に成功されました。それらの実績により昭和53年4月開学間もない本学電気・電子工学系電子デバイス工学講座教授として赴任され15年余、企業における第一線の研究者としての経験を十分に生かした教育・研究に邁進されました。

当時、半導体は産業の米であると言われておりましたが、先生がその半導体にかかる情熱は留まるところを知らなかったと云えます。大学としては全国で初めての本格的なクリーンルームを擁した半導体集積回路製作装置をいち早く設置することに奔走され、それを実現して新構想大学院大学たる本学に真に相応しい特色ある教育・研究を展開する道を開かれました。この設備を駆使して、プレーナ型 npn トランジスタの試作に成功を取めた後、宇宙酔実験用集積回路開発、集積化磁気センサ、超小型テレメータ IC、高温用圧力センサ、集積化インテリジェントセンサなどを矢継ぎ早に開発されました。これらの成果は国内外に豊橋技科大に中村先生有りという高い評価を受けてこられました。先生の情熱は、当然薫陶をうけた学生にも見事に反映されて、先生が指導された学生の学位論文の質の高さに教官仲間とし感銘を覚えたものでした。先生が教育者としての卓越した力を遺憾なく発揮された結果でありました。

毎年夏に電子デバイス工学講座が開催する「プレーナ講習会」は、上記の設備を活用して昭和56年の第1回から今年まで14回にわたり、大学が提供する社会人

それにしても学長就任このかた湯川夏夫先生を失い、河竹好一・榎本茂正両先生もご退官後間もなく逝かれた。哲さんは4人目である。自分より若い先生方に甲辞を捧げる悲しい役目はこれをもって願ひ下げにしてほしいものである。(平成6.12.20記)

## 電気・電子工学系長 小崎正光

教育の先駆的企画として全国的にその評判は高く、受講者は順番待ちの盛況となり本学の名をいやがうえにも高めたものであります。先生はこの企画の発案と実行にリーダーシップを発揮され、常に先頭にたって指導をしてこられ、大学は社会と太いパイプで結ばれるべきだとする自らの確固たる信念を実践して来られたのです。

そして、これまでの実績が評価されて平成5年度には、先生の長年の夢であった「固体機能デバイス研究施設」が設置されるに到り、キャンパスの東北の一角に最新設備を備えた建物が完成し、活発な研究活動が開始されたのであります。先生には、半導体工学の先進国として国際協力の立場から留学生を教育することは当然として、さらに積極的に韓国の慶北大学校と本学の間に共同研究協定を締結するのに尽力され、本年5名の博士課程の学生が来学して電子デバイス工学講座で研鑽を積む機会を実現されたのです。このように着々と構想を実現してこられ、これからさらに一層のご活躍を皆が期待していたのは偽らざるところでありました。先生ご自身も病に倒れたことを無念に思われたこととお察しいたします。

電気・電子工学系系長や技術開発センター長など、大学の牽引車としての役を引き受けられた先生のエネルギーな仕事ぶりとお元氣さに我々は信頼し切っていたのです。少なくともあと10年はご指導頂けるものと思っていただけに、先生の偉大さと亡くしたものの大きさに改めて思いをいたしております。

しかし、先生のご指導の下に育った若い世代は着実に実力を伸ばしてきており、力を併せて先生の偉業を継続発展させる決意をいたしております。そして遺された者達は微力を尽くして先生の抱かれた夢を一つ一つ実現していくことをお約束いたします。その成果を天国から暖かく見守って頂くよう祈念いたします。

中村哲郎先生どうか安らかに眠り下さい。ここに心からのご冥福をお祈り申し上げます。